

南部っ子

第3号
平成17年6月3日
寒河江市立南部小

啐啄同機

校長 安食洋一

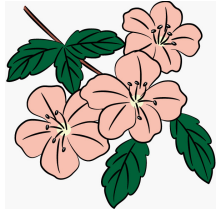
今まさに小鳥たちは子育ての真っさかり。子供の成長の度合いを知り、タイミングを逃さず指導の手を加える重要性を述べている言葉のようだ。中国の碧巖録「二」という書物に出てくる言葉である。鳥の卵は母鳥に二十一日間温められると、中が熟し、ひなが中から弱いくちばしで殻を破って、出ようとして鳴く声を「啐」という。そのとき、機を逃さず母鳥が堅いくちばしで殻を破る。その音を「啄」という。ひな誕生の間である。早過ぎても遅すぎてもひなは誕生できない。まさに同時でなければならぬ。子供の目を見て、心の動きを見て、欲求の熟す度合いを感じ取り、読み取り、必要な分だけ指導の手を加えなければならぬのである。目の前の子供の発達や興味関心に合わせて、適時に教育することの重要性は改めて言うまでもない。今の子供達の実情からみて、大人が主体性を発揮し、もっと何かしてあげなければならぬ気がする。学校と家庭、そして、地域が役割分担をして、強力で結束し、教育問題の解決を図る時期なのであろう。まさに啐啄同機なのである。



地区の方々の学校への「提言や励まし」、そして、「来訪を心より

お待ちしている。特に本年度は、「いのち輝く子供の育成」をテーマに山形県第五次教育振興計画実施初年度であり、「いのち」「まなび」「かかわり」をキーワードにした、活性化元年である。本校は創立百二十一年を迎えて学校変革の啐啄同機であり、ピオトップ造成という、地域と学校が共通な目標も抱えている。学校でも家庭でも、行事の内容を見直したり、意義を再確認する時好機なのである。よりよい学校、よりよい家庭、よりよい地域になるよう教職員、保護者、地域、そして子供達と一心を合わせ、共に頑張っていきたいと願っている。

五月の俳句



一年
このほり ゆらゆらゆれて はるのかぜ すずき あんな
このほり かぜにふかれて うれしそつ いとう かすみ
このほり およいでいるよ きれいだよ いがらし みらい
はなみずき さがえのまちに まんかいだ あへ こつだい
ははのひに かんしゃのきもちで かたたたき せいのみく

二年
めじろの子 あそんでつかれ ねむつた 柴橋 杏菜
サツキの木 オレンジ色の 花がさく 高橋 楓
カーネーションなみたのかのおおばあちゃん 須藤 円香
こいのぼりひこうきもを 食べている 横山 伽羅
たけのこが とんがりあたま 出してるよ 伊藤 千紗
五月晴れ 元気なかけこえ 春まつり 柏倉 豪
五月には すもむたいかい がんばるぞ 今井 諒
はなみずき さがえのまちに 花がさく 古城 早佑梨

三年
母の日に 母の笑顔 しわへらす 五十嵐 彩夏
夜なれば たんほでかえる コンサート 佐藤 匠
母の日に かたたたきけん プレゼント 白田 つぐみ
庭の木で ことは一番 はなみずき 大泉 夕奈
こどもの日 みんなでおにをきめている 石山 未紗
このほり いつも弟 見上げてる 渡邊 春輝
とびうおが ぴよんとひとはね いきがいい 金澤 一真
バラの花 いつもきもちがら きれいだな 佐藤 宏樹
母の日に ばあちゃんつれてく プレゼント 佐藤 日菜

四年
このほり 青いキャンパス いろどって 五十嵐 博子
わくわくと わかばとときめく 京りよう 渡邊 聖也
くさぶさは ピイピいとりの なきこえた 高橋 陸
はやくこい ぼくの心に 五月晴れ 伊藤 晃平
母の日に あげたスポンジ つかってね 五十嵐 陽一
母の日に いつもとちがう あせをかく 田口 源

五年
母の日に この日とばかり かたたたき 五十嵐 朝紀
新緑が 光と交わる この季節 落合 亮太
月山の 見える田んぼで 田植えする 黒田 悠大
五月晴れ 田んぼの苗も うれしそつ 武田 昌太
風吹いて みんな笑顔の こいのぼり 高橋 礼奈
草笛の 音で目覚める 最上川 阿部 美空
公園で 兄の草笛 ひびいてる 佐藤 佑衣子
つくしんぼ 野原のなかで せいくらへ 阿部 司

田植えして 手足全部 どうだらけ
 雨上がり あややか色の ハナミズキ
 母の日に お手紙書いて お祝いす
 カッコウが 声高らかに 鳴いている
 佐藤 園佳
 大沼 希
 佐藤 佳祐
 北村 直人

六年

母の日に 心の花を プレゼント
 茶摘みして 家族で新茶を 舌つつみ
 母の日の 感謝をもちっ お母さん
 こいのぼり 下で家族と 記念写真
 草笛が 風に流され 聞こえたよ
 母の日に 作ってあげたい 夜ごはん
 母の日に 母休ませて 仕事する
 ばあちゃんがかささまき作りに もっ夢中
 春がある うす色ピンク リンゴ花
 母の日に 母ちゃん休んで カレー作り
 大泉 梨奈
 佐藤 美咲
 奥山 千愛実
 佐藤 拓也
 若松 和
 田宮 欣樹
 矢代 竜也
 森谷 英一朗
 森谷 美咲
 戸田 飛雄吾

大人の部

千年後 君といっしょに ハナミズキ
 悲しけれ 五月雨そそぐ ハナミズキ
 白赤の ハナミズキ待つ ぼくの街
 心るさへへ あいさつもせず ほろろす
 思い出の せせらぎに流す げんげ草
 遠田詞音君の家族
 加藤峻治君の家族
 夢野 継木
 夢野 継木
 夢野 継木

市陸上運動記録協会(五月十八日)
 全員が、自己の記録に挑戦
 たくさんの入賞者
 クラス対抗四百mリレーで すべて入賞
 女子八百mで、みごと優勝



南部小・相撲大会 (5月28日)

礼に始まり礼に終わる相撲道。南部小の子どもたちは、「そんきょ」すること、にらみ合うこと、体と体をぶつけ合うこと、気持ちを集中すること等、日ごろとは違った体験をし、より一段と成長しました。

子どもたちは、一人ひとり精一杯力を出し切って戦いました。結果は、西方の勝利。

ビオトープ造成委員会 発足

- ◎ 五月二七日に、ビオトープ造成委員会が開催され、会長に高橋博氏が選任されました。九月下旬完成を目指しています。
- ◎ 第五次教育振興計画は、『いのち輝く子供の育成』であり、南部小ビオトープ造成は、意義深いものであります。
- ◎ 子ども・PTA・地域・教職員が一体になり、思いを抱く空間になるよう取り組みたいと思います。
- ◎ 教育効果が一層高められるよう、地域の皆様のお力添えが必要であります。皆様の「ご協力を切に願います。」

しんぼく学級・講演会の開催について

- ◎ 期日 六月二五日(土) 十四時より
- ◎ 演題 「命を大切に育てる子どもを育てるには？」
- ◎ 講師 林 淑子 先生